おわりに

今回、無駄安留記隊が取り組んだのは、千代川より西側に位置する高草郡である。ここは、本報告書でも取り上げた賀露港・賀露神社・湖山池など因幡国を代表する名所を持った地域といえる。戦国時代から江戸時代にかけての大きな歴史的な舞台となっただけでなく、本報告でも取り組んだように和泉式部など文学的・民俗的な豊かな文化をはぐくんできたところでもある。

我が無駄安留記隊は、十三人という今までにない大所帯でこの地域の調査を行った。知名度の高い賀露や湖山は、分担を決めて調査してみることにした。賀露では、賀露神社の祭神吉備真備を中心に構成し、湖山では、和泉式部伝承に関わる地域の長期にわたる文化的な蓄積を確認し、さらに湖山池が江戸時代いかに著名な名所であったのかを改めて認識することができた。また、千代川と湖山池の間に広がる空間にも、嵐ヶ鼻、岩室神社、徳尾の森（大野見宿禰神社）という隠れ名所が存在することも「発見」した。

とくに、野見宿禰にまつわる相撲伝承は個人的にはたいへん興味深いものであった。なぜなら、たんに大野見宿禰神社の祭神野見宿禰が相撲伝承を持つというものだけでなく、現代の力士たちにとっても聖地のような意味を持ち、さらに鳥取周辺は相撲に関わる記念碑が数多く存在することが知られている。例えば、賀露の東善寺には多くの力士の塚があり、湖山池周辺は知る人ぞ知る相撲塚の宝庫である。池を一周する間にいくつもの塚を見つけることができる。こうした身近な地域文化の発見は、学生たちにとっても、大学あるいは下宿などのすぐ近くにある地域の遺産を違った観点から見つめるきっかけになったのではないだろうか。

今回、無駄安留記高草郡の翻刻に加えて、この地域に関わる貴重な史料の翻刻も行い提供してみることにした。無駄安留記が記されたことがらの、歴史的・文化的な背景を知る重要な資料と考えている。『安政四年　在方御改正御用日記』は、近世後期の村がどのような経緯で成立していくのかを知る史料であり、『木鼠翁随筆』巻十のなかの「因州湖山三七景舟行」は、湖山池の名所としての位置づけを改めて知ることになるだろう。

最後に、実地調査にあたって鳥取県立博物館、賀露神社、龍福寺など関係者の方々には、多くのご助力をいただいた。ここに改めて感謝申上げたいと思う。

（岸本　覚）